

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	杉浦 和子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

助産師としての臨床が長く、妊娠期から産褥育児期までの女性に出会い、2000例を超える分娩に携わらせていただきました。また婦人科疾患においては思春期から老年期までの女性から多く学ばせていただきました。それらの経験と共に研究力向上を目指し、大学院に進み、博士号を取得しました。

これまでの研究は、主に女性および女性を支える方々の意思決定支援、女性の加齢とともに変化する女性ホルモン（エストロゲン）に着目して取り組んできました。また医療安全に向けた専門職連携では硬膜外麻酔分娩に関する研究も取り組んでおります。中でも、女性ホルモン剤と血栓症について日本人女性について初めて公表した疫学的知見は、Asia & Oceanic Federation of Obstetrics & Gynaecology (AFOG)において、Reproductive Endocrinology & Infertility (生殖内分泌・不妊不育症) 分野の最優秀論文の著者として国際的に評価 (Y.S Chang Endowment Award) いただきました。経口避妊薬 (OC : oral contraceptives) と保険適用の経口避妊薬 (LEP : Low dose estrogen progestin) である OC/LEP のガイドラインにおいては、エビデンスとして複数の国際論文が評価され引用いただけました。これらの礎は調査協力いただきました方々、多くの先生方により研究指導いただき、産婦人科のみならず国民の皆様にご貢献できました。これを礎に、さらなる精進を重ねてまいります。今後ともよろしくご厚意申し上げます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

1. Kobayashi T, Sugiura K*, Ojima T, Hirai K, Morishita E. Peripartum management of hereditary thrombophilia: results of primary surveillance in Japan. *Int J Hematol* 2022; 116(3): 364-371. doi: 10.1007/s12185-022-03354-4. (*:co-first author) Impact factor (IF):2.324
2. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. The epidemiological characteristics of thromboembolism related to oral contraceptives in Japan—Results of a national survey. *J Obstet Gynecol Res* 47(1); 2021: 198-207. doi: 10.1111/jog.14452. IF:1.697
3. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. National survey of confirmed thromboembolism related to female hormones in Japan. *J Obstet Gynaecol Res* 2020 May 25; 46(7): 1173–1182. doi:10.1111/jog.14303. IF:1.697
4. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (5) 女性ホルモン剤と血栓症のリスク因子, 血液型別リスクおよび予後 全国疫学調査結果から②.助産雑誌 75(12): 962-967, 2021
5. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (4) 女性ホルモン剤と血栓症発症に関する知見 全国疫学調査結果から①. 助産雑誌 75(11): 872-876, 2021
6. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (3) 女性ホルモン剤の服用と血栓症発症率の関係. 助産雑誌 75(10): 790-794, 2021
7. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (2) ピルの種類と血栓症の歴史. 助産

雑誌 75(9): 700-703, 2021

8. 杉浦和子: 5 つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (1) 女性のライフサイクルと女性ホルモンの変化. 助産雑誌 75(8): 620-623, 2021

②その他最近の業績

<学会発表>

1. 小林隆夫, 森下英理子, 津田博子, 杉浦和子, 平井久也, 尾島俊之: 遺伝性血栓性素因患者の妊娠分娩管理に関する全国調査研究および診療ガイドラインの策定
2020.2.22. 第14回日本血栓止血学会 SSC シンポジウム. 血栓性素因部会, 静脈血栓症/肺塞栓症部会「血栓性素因を再考する」.
2. 小林隆夫, 森下英理子, 津田博子, 杉浦和子, 平井久也, 尾島俊之: 遺伝性血栓性素因患者の妊娠分娩管理に関する全国調査研究および標準周産期管理 2020.6.19. (Web 開催) 第42回日本血栓止血学会「第9回プロテインS研究会シンポジウム」
3. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T: Stroke related to female hormones increases with age in Japan. 2020.11.7-9 (Online Conference e-poster presentation The European Stroke Organization and The World Stroke Organization (WSO)Conference (ESO-WSO 2020) Vienna
4. 杉浦和子: わが国における女性ホルモン剤使用と血栓症-2 つの調査結果による新しい知見 2020.10.10. (Web 開催) 第61回日本母性衛生学会総会・学術集会「スポンサードセミナー3」
5. 杉浦和子, 松浦賢長: 年代別にみた月経時における鎮痛薬使用と経口避妊薬(ピル)使用願望との関連 2021.9.27.(WEB 開催)

② 過去の主要業績

1. Sugiura K, Ojima T, Tetsumei U, Kobayashi T. The incidence and prognosis of thromboembolism associated with oral contraceptives: age-dependent difference in Japanese population. J Obstet Gynaecol Res 2018 Sep;44(9):1766-1772. doi:10.1111/jog.13706. (AOFOG: Y.S Chang Endowment Award 2019) IF:1.697
2. Kobayashi T, Sugiura K, Ojima T. Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives in Japanese compared to Western women. J Obstet Gynaecol Res 2017 Mar;43(5): 789-797. doi: 10.1111/j. Obstet Gynaecol Res 2017.04. IF:1.697
3. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives related to body mass index and aging in Japanese women. Thromb Res 2016 Jan; 137:11-16. doi: 10.1016/j.thromres.2015.11.038. IF:10.407
4. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. Thromboembolism as the adverse event of combined oral contraceptives in Japan. Thromb Res 2015 Dec;136(6):1110-1115. doi: 10.1016/j.thromres.2015.09.011. (博士論文) IF:10.407

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（若手研究） 課題番号：19K19683「月経困難症疑いの30代女性を対象とした受診行動支援のためのAIプログラム開発研究」2019年～2023年

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C） 課題番号：23K10112「硬膜外麻酔分娩における専門職連携に向けたシミュレーションプログラムの開発研究」研究代表者 2023年～2026年

4. 受賞

2019年 Asia & Oceanic Federation of Obstetrics & Gynecology (AOFOG) Y.S Chang
Endowment Award

2018年 褒哲司賞

2018年 Asian-Pacific Society on Thrombosis and Hemostasis (APSTH2018) Poster Award

2013年～毎年 広域社団法人地域医療振興協会より感謝状授与

5. 所属学会

日本母性衛生学会，日本看護倫理学会，日本助産学会，日本公衆衛生学会，東海公衆衛生学会，日本疫学会，なごや看護学会，日本保健福祉学会，日本思春期学会（幹事），日本産科麻酔学会

6. 担当授業科目

<学部>女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期，女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

<大学院>ウイメンズヘルステ論・1単位・1年・前期，ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期，基礎助産学特論・2単位・1年・前期，基礎助産学演習・2単位・1年・通年，助産学特論・2単位・1年・前期，助産学演習・2単位・1年・後期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期，ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期，ホリスティック助産学演習・2単位・1年・後期，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，助産実践学Ⅰ（妊娠期）・2単位・1年・前期，助産学実践Ⅱ（分娩期）・4単位・1年・通年，助産学実践Ⅲ（産褥期）・2単位・1年・後期，助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・1単位・1年・前期，助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・8単位・1～2年・後期，助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・2単位・2年・前期，助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・1単位・2年・前期，助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・2単位・2年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 広域社団法人地域医療振興協会から感染症週報の情報を提供
- ・ 日本助産学会査読委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等